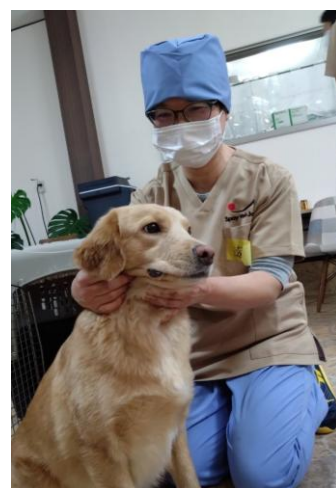


Be the Humane Impact for Japan!



Times

2025.4
Vol.3



Contents

- トレーニングプログラム
と出張デモオペ
- アメリカ訪問記
- カンファレンス2024
- 繁殖予防病院(南紀白浜)
活動報告
- 2025年度行動計画



一般社団法人 **Spay Vets Japan**
スぺイベッツジャパン

〒581-0014 大阪府八尾市中田4丁目136-3
Email: info@spayvetsjapan.org



<https://spayvetsjapan.org>

外科実習トレーニングが 本格始動しました！



当会では、会員向けに卒業獣医師の不妊去勢手術の技術向上のためのトレーニングプログラムを実施しています。2024年は計6回のトレーニングデイを開催し、合計15名の獣医師に技術指導を行いました。23名の獣医師がトレーニングコースに見学で参加しました。このトレーニングで、実習医により138頭の猫が不妊去勢手術を受けました。

トレーニングは、トレーナー1人と実習医1人がマンツーマンで指導にあたり、見学者が麻酔管理と手術過程のタイムキーパーを行っています。

トレーニングプロジェクトチームは常に最新の知見に沿った、より安全で動物に負担の少ない術式や薬剤などを議論し、トレーニング後には指導方法を振り返り、次のコースに向けての改善を重ねています。

また、実習医それぞれの技術レベルに合わせて事前に打ち合わせを行い、コース終了後には綿密な評価をもとにフィードバックを行い、それぞれの目標に向かってサポートできるよう指導しています。

今後もさらにパワーアップし、将来の動物愛護獣医師を育てるため、トレーニングプログラムを継続していきたいと考えています！

本企画は、トレーニングプログラムのサポート法人である一般社団法人Happy Tabby様ならびにご寄付を下さっている皆様からのご支援により実施しています。

暖かいご支援、心から感謝致します。

また、協力猫さんと保護主様にも心から御礼申し上げます。



■トレーニングを受講された先生の声

- ・今まで自分が疑問・不安に感じていたことを解消できただけでなく、スムーズに進めるコツを教えていただいて更にその場で実践できたので、確実にスキルアップできました。参加されていた先生方との情報交換も非常に参考になりました。
- ・評価表をいただき、とても細かいところまで見てくださっていたことに感激しました。
- ・ランチ時やトレーニング後に同じ志の獣医師と交流できて刺激的でした。

■オンライン勉強会の開催！

2024年は外科実習トレーニングに加え、全6回にわたるオンライン勉強会を実施いたしました。橋本獣医師の動物愛護獣医師の役割についての熱い講義から始まり、ベテランのトレーナー陣が講師となって、不妊去勢手術に関する基礎的な知識はもちろん、猫が安全に手術を受けられるかなどの判断やエマージェンシー時の対応、手術にまつわるイレギュラー症例等を学びました。

講義では毎回参加した会員獣医師が熱心に聞き入り、講義後には意見交換で大いに盛り上がりました。

スパイククリニックの獣医師は、不妊去勢手術だけであればよいのではなく、術前検査も事前情報もない野良猫だからこそ、身体検査だけで診断する臨床能力が必要になります。また野良猫にとって一期一会の病院だからこそ、不妊去勢手術以外にも必要な処置やケガなどにも可能な限り対応できるようにすることが重要です。

今後も最新の知識や技術を常にアップデートしながら、このような勉強会を継続していきたいと考えています！

【獣医師の育成には、皆様からのご支援が必要です！】

毎回トレーニングコースに協力して頂く猫さんは、トレーニングの執刀であることを同意して頂いた上で、手術は無償で行っています。活動の継続には運営資金が必要です。

皆様からのあたたかいご支援を心よりお待ちしております！

（詳細は巻末のご寄付のご案内をご覧ください）

お気軽に見学ください！

【2025年トレーニングデイ開催予定も決定】

技術アップ・傷口1cmを目指すあなたへ

トレーニング講習会 見学無料

場所：Happy Tabby Clinic

こんなお悩みありませんか？

- ☒ 不妊去勢手術の指導を受ける機会が無い
- ☒ 不妊去勢手術をスキルアップしたい
- ☒ 早期不妊去勢手術を見てみたい

早期不妊去勢手術（生後5ヵ月齢までに行う手術のこと）

講習会で高速高回転手術・早期不妊去勢手術を学べる！

トレーニング受講者・見学者の声

トレーナーの先生がマンツーマンで指導してくれるので安心して手術に取り組めた

高速高回転手術（1日30匹の手術）を進めるコツが見れて勉強になった

早期不妊去勢手術を受けた仔猫が術後すぐにご飯を食べるほど元気なことに驚いた



2025年 講習会年間日程（10時～）

3/5	(水)
4/16	(水)
6/11	(水)
9/23	(火・祝)
10/12	(日)
12/10	(水)

お申込みはこちらから

獣医師・獣医学生・動物看護師対象

お問い合わせ

二次元コードまたは、WEBサイトからお願いします。

SPAY VETS JAPANで検索



Spay Vets Japan



一般社団法人

SPAY VETS JAPAN



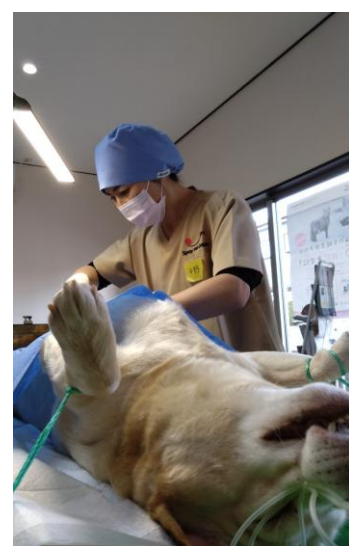
■犬の不妊去勢手術デモオペを繁殖予防病院(南紀白浜)で開催しました

2024年2月17日、18日に犬の不妊去勢手術デモオペ(手術見学会)を実施しました。

過剰繁殖問題は猫だけの問題ではなく、犬にも野犬問題や飼い犬の多頭崩壊といった問題があります。加えて犬の手術は猫よりも難しく、できるだけ負担の少ない手術を、短期間で沢山の犬に行うためには、高度な手術技術が必要になります。

そこでこの度、技術交流並びに学びの機会とするための犬の不妊去勢手術のデモオペ(手術見学会)を、犬猫繁殖予防病院(南紀白浜)で行いました。当日はWanlife様のご協力のもと、トレーニングプロジェクトチームの3名の執刀医(大門獣医師・平野獣医師・遠藤獣医師)を含む会員獣医師14名と、会員外からは4名の行政獣医師が参加され、4か月齢の仔犬、小型犬から30kgを超える大型犬まで、2日間で20頭の不妊去勢手術の見学会となりました。

是非とも犬の手術技術を向上させ、犬の過剰繁殖問題にも対応したいとする官民それぞれの獣医師が一堂に会し、熱心に手術を見学され、執刀医への質問が飛び交い、参加者同士で意見交換を行う会場は、切磋琢磨の熱気に包まれました！



■行政施設内でのデモオペ・トレーニング始動！

《新潟市での出張デモオペと講演活動 2024年6月5日－6日》

新潟市動物愛護センター内「にゃんがたセンタークリニック」でのデモオペと、講演に行ってきました。このクリニックは愛護センターの一室を用いて県内の臨床医が交代で執刀を行う、日本初となる官民一体スパイクリニックです。2024年秋の開業に向けて、スパイクリニックならではの高回転手術を指導するべく、Spay Vets Japanの獣医師が現地でのデモオペを実施しました。当会にとっても初の行政施設内でのデモオペです！





今回は大門獣医師・遠藤獣医師の執刀で子宮吊り出し術でのSpayを含む不妊去勢手術を実演し、橋本獣医師は高回転の手術室を実現する方法を指導するため、主に助手の方、ボランティアの方への指導を行いました。

デモオペに先立ち、今後このクリニック事業に協力される先生方に向けて、スパイククリニックのミッションとそれが必要な根拠となる過剰繁殖問題の現状、早期不妊去勢手術の必要性を説明しました。

診察の合間を縫っての忙しい中にも関わらずたくさんの先生方が参加され、積極的に執刀医と情報交換をされました。本事業への関心の高さがうかがえ、素晴らしいことだと思いました！

市民講座にも獣医師を含む沢山の方にご参加いただき、不妊去勢手術の重要性とそれがいかに防災のために必要なのかを伝える貴重な機会となりました。

聴講された皆様からこの度の講演内容をさらに広めていただき、不妊去勢手術の普及に繋がっていくことを願っています。

《宮城県動物愛護センターでの出張デモオペ 2024年12月12日》

今回は地元出身の大門獣医師の執刀で、成猫のオスとメス、成犬のオスとメス、さらに体重1kgちょっとの仔猫のメスの手術を実演し、その後意見交換会を実施いたしました。仔猫のオスの手術に関しては、保健所職員に実際に指導しながら去勢手術をやってもらいました。当日は動物愛護センター職員および各保健所の職員の合計11名が参加しました。獣疫衛生業務担当者12名のうち9名が臨床経験があるとのことで、皆さん最初から最後まで質疑応答も活発で熱心に見学されていたように思います。

宮城県では収容施設のある5つの保健所と動物愛護センターの職員が実際に、センター内の手術室で早期も含めた譲渡前不妊去勢手術をされています。今回のデモオペを通じて、普段の手術技術の向上や効率化に少しでも役立ち、収容動物の譲渡促進に繋がれば幸いです。



出張デモオペ・トレーニングお申し込み受付中！

当会では、2025年もこうした行政施設内でのデモオペやトレーニングを加速させていきます。不妊去勢手術を学ぶ機会が少ない行政獣医師に対し、出張でデモオペや技術指導を実施することで、仔犬や仔猫の早期不妊去勢手術も含めた譲渡前手術が当たり前の社会を目指していきたいです。

出張デモオペ・トレーニングをご希望の自治体様はまずはemailにご連絡ください。

info@spayvetsjapan.org

アメリカ訪問記

渡航者(獣医師):橋本恵莉子、大門みゆき、平野亜矢子
日程2024年8月12日~19日

12月のカンファレンスでお世話になるフロリダ大学のLevy先生へのご挨拶を兼ねて、アメリカのスパイククリニックやシェルターを巡ってきました。訪問先はフロリダ州とカリフォルニア州ロサンゼルス。州による違いも感じる旅となりました。

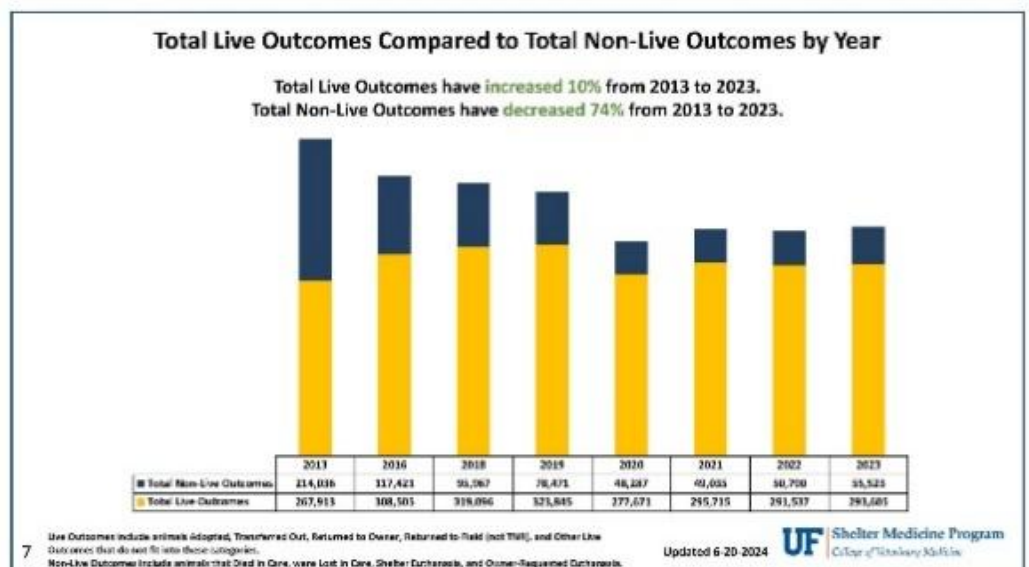
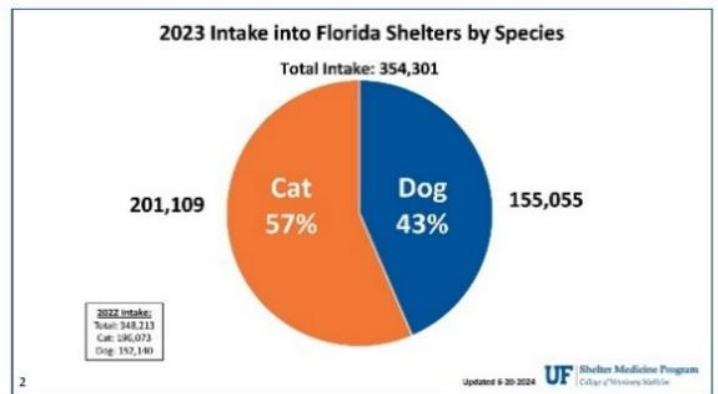
訪問先:

- 3/13 Peggy Adams Rescue League (民間シェルター:フロリダ州ウェストパームビーチ)
- 3/14 フロリダ大学 (フロリダ州ゲインズビル)
 - Citrus County Animal Services (行政シェルター:フロリダ州シトラス郡)
 - Marion County Animal Services(行政シェルター:フロリダ州マリオン郡)
- 3/15 Operation Catnip (民間TNRクリニック:フロリダ州ゲインズビル)
- 3/16 CAMP LA(民間低価格動物病院:カリフォルニア州ロサンゼルス)
- 3/17 North Figueroa Animal Hospital(個人動物病院:カリフォルニア州ロサンゼルス)
 - Eastwood Ranch Foundation (民間シェルター:カリフォルニア州ロサンゼルス)
 - The Amanda Foundation (NPO動物病院:カリフォルニア州ロサンゼルス)

■フロリダ編

1998年から野良猫管理と獣医学生教育とのコラボレーションに取り組んできたフロリダ大学があり、大学での実習はもちろん、近隣のシェルターやTNRクリニックでも学生の受け入れが充実していました。シェルターでの収容は犬では雑種やピットブル系の大型犬が多かったです。猫に関しては収容数の抑制のため、

どの施設でもHigh VolumeなTNVR(TNRと同時に狂犬病ワクチン)が行われていました。またシェルターに留まる猫を減らすための新たな取り組みとして、農場などへ複数頭譲渡し、害獣駆除の仕事をお願いしつつ屋外で飼養してもらうワーキングキャットプログラムが順調だという話が興味深かったです。



■Peggy Adams Rescue League（フロリダ州ウェストパームビーチ）



民間施設でありながら広大な敷地には譲渡センターとクリニックがあり、譲渡は年間約6000頭、避妊去勢手術と医療ケアは約12000頭という実績があります。行政からの資金的な補助はなく寄付で運営しているとのことで、ネーミングライツなどによる大型寄付を集める工夫も多く見られました。寄付での運営ですが、管理の行き届いた設備で収容犬猫達はのびのびと新しい家族を待っていました。学生へのトレーニングを兼ねた大規模一斉TNVR手術や低所得者支援のための狂犬病ワクチンとフード支援、子供達への道德教育などもされています。

■フロリダ大学

UF
UNIVERSITY of
FLORIDA



大学での実習風景

社会で医療を必要としている犬猫の手術やケアを学生が行うことにより、実習そのものが社会貢献につながるという素晴らしい教育が行われていました。また保護施設と大学の調整役としてシェルターメディスン講座アシスタントという職があり、保護活動も行っているCameronさんがサポートを行う体制が整っていました。大学と保護施設の間に継続的で密な連携がとれていることの重要性を感じました。今後、このような教育が世界のスタンダードになっていくことを期待しています



↑左から、Cameron、橋本獣医師、大門獣医師、平野獣医師、Julie K Levy教授
←community Outreachエントランスへ向かうDr. Levy。ここからシェルター収容動物が搬入される。Dr. Levy自ら、私たちのために大学ツアーをしてくださりました。



災害時などに活躍する移動診療車



大学病院エントランス

■Citrus County Animal Services (行政シェルター:フロリダ州シトラス郡) & Marion County Animal Services(行政シェルター:フロリダ州マリオン郡)



行政シェルターにも凄腕の獣医師が勤務しており、日々多くの犬猫に避妊去勢手術が行われていることが印象的でした。Marionの獣医さんは手術時間が雌犬10分、雌猫3分とおっしゃっていてびっくりしました。対象は、収容動物、TNVR、必要に応じて飼い犬猫に対応することも。

多くの預かりボランティアさんと連携があり、必要な資源医療費の提供、無料のTNVR、飼い犬猫の収容を防ぐため支援が必要な飼い犬猫に対する基礎医療の提供、といった、具体的な取り組みをされていました。

Marion Countyの施設にはモバイルクリニックもありました。



Cameronが案内してくれました。



フル稼働する施設内の手術室



■Operation Catnip

1998年にDr. Levyが立ち上げたこちらのプロジェクトでは、地域猫のTNVRとサポート、獣医学生のトレーニングを主な活動とし、これまでに80000頭以上の不妊去勢手術が行われています。私達が訪問した日も獣医学生のトレーニングが行われており一日見学させて頂きました。看護師も含めチーム全体が、学生が勉強できるよう連携してサポートをしていました。初めて参加する学生は外回り、去勢手術、避妊手術と段階を踏んだトレーニングを行うようになっており、安全に手術が行われるためのプログラムが確立されていました。頻繁に参加している学生の中にはこれまでに数百頭のオベ経験を持つスーパー学生もいて、ベテラン陣の戦力になっているだけでなく、教育係としての役割も果たしていました。連携のとれたHigh Volumeクリニックというだけでなく、次世代への教育ありきの空間から、私達も見倣いたい、学びべきものが沢山ありました。



指導医による学生指導



経験豊富な学生が他の学生を教える場面も



この日実習を受けた学生さんと

■カリフォルニア州ロサンゼルス編



ロサンゼルスでは、ポストコロナの現在、深刻な獣医師不足とそれに起因するプライマリーケア（ワクチンや不妊去勢手術などの基礎医療）不足から、シェルター収容率は200%にのぼり、安楽死がやむを得ない状況になっているそうです。また移民の方も多く、言葉や文化の問題で動物福祉の普及が困難であることも伺いました。収容されている犬は大型犬に加えて、純血種や小型犬も多く、不景気の影響で生活費のための闇ブリーダーによる繁殖が問題になっている実態もあるようでした。また不景気のためペットを手放すケースが多くあり、その予防のため、支援が必要な方が十分な医療が受けられるように取り組みが行われていました。



■Community Animal Medicine Project (CAMP Mission Hills)

ロサンゼルス恵まれない地域にもプライマリーケアを普及させ、シェルターでの安楽死と収容の削減を目指しているCAMPという団体で、ロサンゼルスに常設またはモバイル型の4つのクリニックを持っています。今回訪問したMission Hillsでは、獣医師のトレーニングも行っています。Mission Hillsの施設は、使われなくなった元行政の収容所を、犬の保護団体(Paws For Life K9 Rescue)、猫の保護団体(Rory To the Rescue)そして動物病院であるCAMPが合同で市から無償で借り、行政での収容数の減少に貢献していました。市と保護団体双方にとってメリットのある協力関係に感銘を受けました。



Campでのトレーニング(有償)

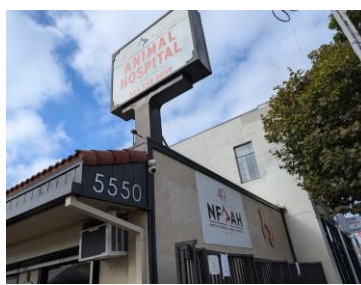
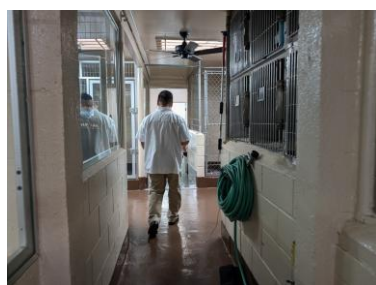


Paws For Life K9 Rescue



■North Figueroa Animal Hospital Dr. Ronaldo Joey Vasquez

Champion for LA Petsと呼ばれるDr. Joeyの動物病院は、シェルターや保護団体への不妊去勢手術や、低価格での手術を提供することで、新たな収容動物を防ぐことに尽力されています。私達が訪問した前日には、1日で犬猫合わせて70頭以上の執刀をされたという凄腕獣医師です。かねてよりSpay Vets Japanを応援して下さい、2023年には山崎ヒロさんのご紹介で、当会の拠点としている大阪のクリニックにもお越し下さりました。大きな社会的意義を持つ獣医師としての在り方を教えて下さっています。



■Eastwood Ranch Foundation

Alison Eastwoodさんが代表を務めるこの財団は、殺処分率の高いシェルターから動物をレスキューするだけでなく、キャンペーンや啓発活動、避妊去勢手術に尽力し、ペットの過剰繁殖問題にも取り組んでいくことをミッションとし、新たに立ち上げられました。

私達はDr. Joeyのご紹介でオープン前の施設を訪問しました。案内して下さったのはアリソンさんと共にこちらの施設で活動すると同時に、ロサンゼルスでTNR活動、保護猫活動に尽力されているCatnippersのChristine Harteさんです。施設にはすでに、Christineさんが保護し、Dr. Joeyが不妊去勢手術を行った猫達が入所していました。ハリケーンなどの災害も多いので、災害時用にフードやケージなどたくさんの防災備蓄もされていました。



施設全体の確認が出来るモニター



窓の外には野鳥のえさ置きがあり、猫が外界を楽しめる工夫がありました。



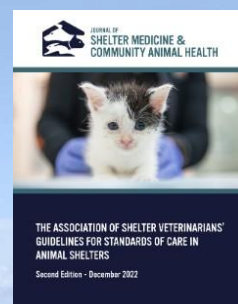
■The Amanda Foundation

フルサービスの医療提供に加えて、モバイルクリニック、譲渡支援、子供への教育活動を行っている歴史あるNPO団体。収容されるペットの数が最も多いのは、低所得でサービスの行き届いていない地域ということで、これらの地域に出向き、無料のTNR提供を行っています。人が大好きで教育犬として活躍していた子が歓迎してくれました。



■訪米を終えて

立派な譲渡施設があり、保護犬猫を選択する人が多いイメージを持っていましたが、実情は保護犬猫を選択する人は約半数ということで収容犬猫の多さは日本よりも深刻な状況であると感じました。収容犬猫の抑制のため、犬猫ともにHigh Volumeの避妊去勢が必要とされ、担い手となる獣医師・獣医学生の育成が獣医大学だけでなく、行政施設や民間施設でも業務の一環として当然のこととして、行われていたことが印象的でした。また多くの施設で、医療技術面で参考にしていくサイトとしてASPCA Pro、シェルター運営での参考にしていく基準としてASVガイドラインの名前が挙がっていました。共通の認識として参考にできる情報が公開され、それぞれ資金力や規模の違いがあるものの目指す基準が細かく公開されていることの重要性を感じました。また手術済みの印として、飼い犬猫、野良猫など所属を問わず、すべての犬猫にタトゥーを入れることが定着していました。タトゥーの普及は、手術済みの見分けがよりしやすくなり、災害時にも役にたちそうだと思います。今回訪米した際には、どの施設の方も温かく迎え入れてくださり、多くのことを学ばせて頂きました。過剰繁殖による社会問題解決という同じ目標を持つ者として今後も交流を続けてきたいと思います。



▲ASVガイドライン



▲術創近くに入れられたタトゥー

Spay Vets Japan主催
**Conference on
Humane Population Control
for Companion Animals**

J A P A N 2 0 2 4

In 大阪公立大学りんくうキャンパス
後援:大阪公立大学獣医臨床センター



2024年12月1日(日)に大阪公立大学りんくうキャンパスで開催しました当カンファレンスは、行政獣医師・臨床獣医師・獣医学生や大学関係者、ボランティアの方等、幅広い立場の方々を含む総勢120名にご参加いただきました。

様々な立場の方々が、国内外の垣根なく意見・情報交換を行い、課題を共有し、各々の立場でできることを真剣に考えていく。Spay Vets Japanは、そんな活発な交流の機会を設けていくことが動物福祉の向上に不可欠であり、人々の意識改革に大きな変化をもたらしてくれるものだと考えています。

■演者と講演内容



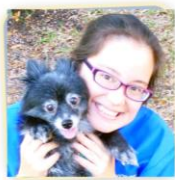
オンラインでの講演

Julie K Levy, DVM

University of Florida College of
Veterinary Medicine Fran Marino
Endowed Distinguished Professor of
Shelter Medicine Education

「地域の猫」の
高負荷一斉TNRと譲渡が
シェルターの受入に
及ぼす影響について

Effect of targeted TNR on cat intake to
sheltering facilities in specific communities.



Patricia A Dingman, DVM, MS

University of Florida College of
Veterinary Adjunct Lecturer In Shelter
Medicine

野良猫管理における、
民間動物病院と
獣医学生教育との
共同事業の成功例

Successful collaborative efforts between
veterinary college and private sectors on
free-roaming cats management.



独自調査報告

Spay Vets Japan 理事

野村芽衣 獣医師

6ヶ月齢以下のメス猫の
発情率の実態と、
現在の日本における
開業獣医師の
不妊去勢手術に関する
意識調査について



Keiichiro Tazawa, MVB

WVS International Project Officer

WVSの取り組みについて

WVS =
Worldwide Veterinary Service
イギリスを拠点とする
動物を支援する国際NGO

・ディスカッション:橋本恵莉子、Zoey Knittel(CAMP代表)
・通訳:吉田尚子獣医師 田澤圭一郎獣医師

今回アメリカよりご講演いただいたのは、フロリダ大学よりジュリー・レヴィ博士、コロラド州立大学獣医教育病院よりパティ・ディングマン博士です。ジュリー・レヴィ博士は、大学教授の立場から、効果的なTNRと地域猫管理の方法について、そしてその実行にあたり獣医師並びに教育の現場はどうあるべきか、論文として発表されている実際の実証調査に基づいた内容をお話いただきました。

また、パティ・ディングマン博士からは、民間動物病院と獣医学生教育との共同事業の成功例等について、お話いただきました。

さらに、イギリスを拠点とする国際 NGO、Worldwide Veterinary Service (WVS) よりお越しいただいた田澤圭一郎獣医師からは、WVSの取組の一つであるMission Rabies(狂犬病が流行している地域にて狂犬病ワクチン接種キャンペーンやコミュニティ教育、政府団体へのコンサルティング等、狂犬病予防と制御を推進する活動)や獣医師や獣医学生に対して犬の不妊去勢手術のトレーニングを行うインターナショナルトレーニングセンター等のご紹介をいただきました。

当会からは、2022年～2023年の間に独自調査した、6か月齢以下のメス猫の発情率の実態と、現在の日本における開業獣医師の不妊去勢手術に関する意識調査について報告させていただきました。

講演後のパネルディスカッションでは、2024年夏、当会が訪問した南カリフォルニア最大の非営利獣医療団体CAMPよりご来日・ご参加いただいたゾエ・ニッテル事務局長をパネラーに交え、国内外の垣根を超えた盛んな意見交換を実施することができました。



■カンファレンスアンケート結果

当カンファレンスにご参加の皆様からご協力いただきましたアンケートでは、フロリダ大学の取り組みや海外で奮闘する団体の活動に触れ、新たな活動の在り方、日本での課題を改めて考える良い機会になった等の前向きなご意見を多くいただきました。

Q:来場者の区分

獣医師(一般臨床)	4
獣医師(一般臨床・スパイククリニック)	3
獣医師(スパイククリニック)	3
獣医師(教員)	2
獣医師(公務員)	10
獣医師(その他)	1
獣医師 計23	
愛玩動物看護師	1
愛玩動物看護助手	1
ボランティア活動者	25
その他	11

参加者



■ 獣医師 ■ 愛玩動物看護師 ■ 愛玩動物看護助手
■ ボランティア活動者 ■ その他

Q: カンファレンスの内容について(印象に残った点)

アメリカでのTNRの成功例について具体的な話があった点
獣医師が率先して啓発しなければいけないという点
アメリカでの学生教育について、指導方法と日本とのギャップ
TNRのHQHVSNの重要性について、TNRの効果を実際に知れたこと。
国外で行なわれている活動がTNR・譲渡と自身の行っていることと同じであったため、自信がもてました。大学内での不妊手術の教育が実現すれば、かなりのスピード感で進めることができるんだと実感をられました。
WVSの活動、狂犬病接種プロジェクトについて
早期不妊去勢手術について、猫や犬の不妊去勢手術の推奨月齢が、日本国内と海外では全く違った点。
4カ月齢でも妊娠する猫がいることを知れた
手術経験のない学生が1年位のトレーニングでspayが10分位で出来るようになったという話はすごいと思った
動物福祉という視点で獣医師の在り方を検討されていることは新鮮でした
アメリカでは学生がボランティアに参加しているのが良い

Q:カンファレンスの内容について(改善した方がよい点)

質疑応答の時間、休憩時間を多く挟んで欲しい
字幕がある方が良かった
声が聞き取りにくかった
スライドが明るく場内が暗く資料がみにくかった
質問は事前に集めて選別したものも一部入れた方が良かったかも

Q: 演者への質問やメッセージ

アメリカでのTNRの実施状況やプログラム、海外での活動などカンファレンスを通じて情報を知ることが出来て、有意義な時間でした。
第1講演のLevy先生に質問です。スライドの「Optimizing TNR impact」についてです。TNRと逆行するムーブメントとは、過剰な地域におけるマネジメントのことでしょうか。それとも、過剰なシェルターでの保護を指すのでしょうか。何を指すのかご教授ください。また、その理由とそのムーブメントへの対処方法をご教授ください。(リターンしたくない方が増えるからでしょうか?)
日本でも学生がTNR手術に参加できるシステムがあれば良いと思います
海外での動物福祉に対する行政の介入の仕方はどのようなものか
日本ではなぜTNR時に狂犬病ワクチンが接種されないのか
アメリカでの不妊手術法はスパイククリニックで行っている方法が一般の病院での手術と同じなのか知りたい。
TNRに関する疫学的調査のことを知りたい。根拠をもってTNRの効果的な活動をしたいので。
日本、イギリス、オーストラリア等、狂犬病の清浄国は島国だけが可能と思っていたのですが(犬だけではなくキツネ、コウモリなど多岐にわたるため)、講演の中で「こうすれば撲滅できると分かっているけどできない」と言われたように聞こえました。撲滅のノウハウを知りたいです。あと、清浄国の日本でも今後も同様に毎年全頭法律で予防注射が義務化されていることをどう思っているか聞いてみたいです。
Spay Vets Japan以外の団体がどう主張されているか知りたい
WVSのプログラム参加は資格を持たない動物看護助手も可能でしょうか?

■カンファレンスアンケート結果

Q:今後カンファレンスで取り上げてもらいたいテーマ等

海外の先進的な話より、日本で何ができるのか(都市/地方)、日本でのTNRの成功例や失敗例(具体的)
TNRプロジェクトをすすめるにあたって、エサやりさんとの交渉、関係構築の仕方など
シェルターの運営、感染症対策などを具体的に
早期不妊手術のメリットを多くの獣医師に体感してもらうため、麻酔や手術の詳細、映像を流し、会員が解説してほしい
早期不妊去勢手術を推奨する病院がSVJ設立後どれくらい増えたか、数年後に調査をして発表してほしい
日本で活動されているスเปイクリニックの方の活動報告を聞きたい。
動物の福祉向上で日本ができること、多頭飼育崩壊への対策について
犬の早期不妊について
行政とのタッグが必要だと思うので、行政ができること、やるべきことなど日本統一にもっていく話し合いができればいい
レスキューされた犬に対する譲渡前不妊去勢手術を行っていない団体や施設に関する問題

Q: SVJへのメッセージ等

新たな法律や動物愛護の前進を希望します。
参加してモチベーションアップにつながった
手術トレーニングにぜひ参加したいと思った
早期不妊は動物に対しても社会問題解決にも有効ですが、それだけを伝えても臨床獣医師には広がりづらいと思います。大学プログラムに取り入れる上でインセンティブが重要なものと同じで、早期不妊が獣医師にとって技術的・経済的にもうまみがあると理解されないと、臨床獣医師に広まるのはゆっくりになると思います。
456調査のその後について追加調査の結果
アクセスしやすい場所でも研修をしていただけると大変嬉しいです。
一般の人が頼るのはやはり愛護センターや市役所等の行政なので、行政との連携を深めて欲しい。
野良犬のTNRを実現したい

最後に、開催に際し、スポンサーの皆様、当日に急遽通訳のお手伝いをして下さった西山先生、パネリストとして参加くださったCAMPのゾエ事務局長、後援いただきました大阪公立大学獣医臨床センター様はじめ、企画運営、広報にご協力賜りました全ての関係者の皆様に厚く感謝を申し上げます。



後援



大阪公立大学 獣医学部 附属
獣医臨床センター
VETERINARY MEDICAL CENTER

Thank you sponsors



有限会社アメディコ



しろねこスเปイクリニック



2025年12月末まで、カンファレンス録画を視聴できます！
詳しくはHP特設ページをご覧ください。

■Conference翌日に開催された日米合同デモオペのご報告

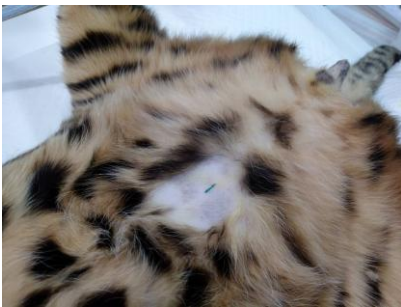
カンファレンス翌日は、パティ・ディングマン博士を招いて八尾のHappy Tabby Clinicにてデモオペを行いました。

当会がトレーニングで採択している術式を公開し、パティ・ディングマン博士にご指南いただきながらPedicle Tie（縫合糸を使わない血管結紮方法）や、不妊去勢手術済みの証としてアメリカで一般的に行われているタトゥー挿入方法を会員獣医師間で共有しました。

手術室では海外と国内の術式・指導方法の違いや新しい知識の共有等、熱い意見交換が尽きず、時間を忘れて全員が没頭していました。

技術面においても国外と積極的に繋がり情報交換し、お互いが良いものを取り入れていくことには、一獣医師として大きな励みを感じます。参加された会員にとっても、忘れられない一日になりました。

2日間にわたりご協力くださったパティ・ディングマン博士、本当にありがとうございました！





犬猫繁殖予防病院

(南紀白浜)

Cat and dog birth control clinic



2024年は15名の会員獣医師が執刀に参加し、手術頭数は猫1093頭、犬71頭となりました。
猫では総数のうち27.3%が5か月齢以下の早期不妊去勢手術でした。

●手術頭数

2024年	飼い猫♂	飼い猫♀	野良猫♂	野良猫♀
1月	33	19	15	10
2月	26	32	16	22
3月	20	39	10	14
4月	6	8	25	53
5月	15	9	17	26
6月	14	17	17	24
7月	27	22	39	57
8月	13	19	8	31
9月	21	15	28	25
10月	22	21	26	36
11月	19	32	17	35
12月	20	13	25	35
合計	236	246	243	368
			総計	1093



●市町村別手術数(上位10位)

田辺市	419
白浜町	290
みなべ町	125
上富田町	105
串本町	38
すさみ町	25
新宮町	21
有田市	13
御坊市	10
印南町	9
那智勝浦町	9



●妊娠数と妊娠率

	妊娠の数	妊娠率%	墮胎数
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	8	15.1	32
4月	33	54.1	130
5月	2	5.7	8
6月	4	9.8	26
7月	10	12.7	32
8月	4	8	9
9月	2	5	8
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0

●5か月齢以下の早期手術

	手術数	割合%
1月	11	14.3
2月	8	8.3
3月	6	7.2
4月	1	1.1
5月	2	3
6月	24	33.3
7月	74	51
8月	43	60.6
9月	55	61.8
10月	33	31.4
11月	25	24.3
12月	16	17.2
合計	298	27.3



■繁殖予防病院の窓口アンケート

繁殖予防病院では、2023年9月の開院より、199名の利用者様にアンケートを取らせていただきました。その結果を以下の表に表記しました。スパイククリニックが地域の皆様にとってどのような存在なのかを調査する目的です。南紀地域は、TNR・保護猫活動ボランティアが少なく、餌やりさんや飼い猫に手術を届けるためには病院自らが積極的に広報、啓発、サポートを進める必要があります。持続可能で効率的なTNRのためには、病院⇄飼い主さん餌やりさん直接のサポートが本来理想的ではありますが、餌やりさんへの啓発に始まり、実際に猫たちを連れてきてもらうに至るのは簡単ではありません。捕獲搬送サポートだけでなく、不妊去勢手術の啓発やスパイククリニックの存在を伝え広めて下さっているTNRボランティアさんの有難さを痛感するとともに、ボランティアさんの少ない地域でどのように手術を普及させるかが大きな課題だと感じています。

しかし難しい状況の中でも、活動が続けていくうちに、ボランティアではないけれど地域猫のために何とかしたいと立ち上がった人、私たちの活動に賛同し応援して下さいの方との出会いがあり、少しずつですが現地の方々とスパイククリニックとの人の輪ができています。その輪を育むための努力を惜しまず、手術普及へ繋げていきたいと思います！

2025年は、地元の人が集まるイベントに参加し啓発を進める、地元行政にも積極的に足を運び、情報交換を行う、相談対応や送迎サポートなど猫を手術に繋げるための積極的なサポートに力を入れていきたいと思っています。

繁殖予防病院窓口アンケート結果 (開院日～199件)

Q1. 何を見て当院を知ったか？

何を見て当院を知ったか	
知人の紹介	111
新聞広告	45
SNS、インターネット	34
近所だから	2
その他	21

保健所	
エバーグリーン	
ワンニャン会の紹介	
ワンニャン会の中本さんから	
説明会参加	
保護団体（ホエールキャット）の方から	
エバーグリーン置き広告	
ワンニャン会	
他の動物病院で聞いた	
wan life	
病院、保護団体から	

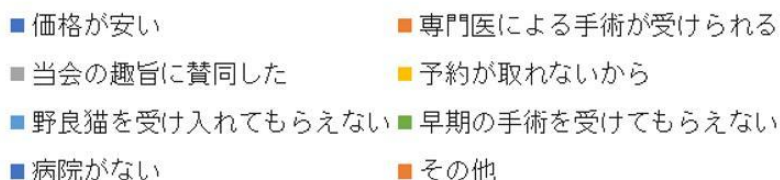
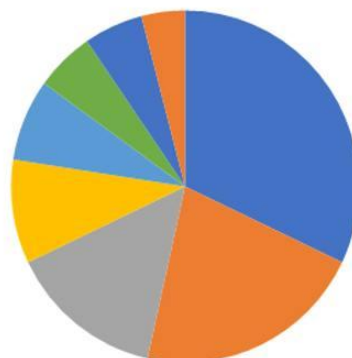


Q2. なぜ当院を選んだか？

なぜ当院を選んだか	
価格が安い	111
専門医による手術が受けられる	74
当会の趣旨に賛同した	50
予約が取れないから	33
野良猫を受け入れてもらえない	26
早期の手術を受けてもらえない	19
病院がない	19
その他	14

たくさんの頭数を受けてくれる病院はここしかないので
先生のうでがすごくいいときましたので
とにかくありがたいと思っています。ありがとうございます。

紹介で	
予約がなかなかとれないから	
知人の紹介	
多頭の為	
ワンライフさんに犬ホテルやしつけでお世話になったことがあるので	
のら猫が減ればと思い	
当会の活動に賛同しています。ガンバって下さい	



Spay Vets Japan 2025年度 行動計画

■講演活動の拡大

過剰繁殖に起因する苦しみから犬猫を救うためには、不妊去勢手術しかないという事実を広め、犬猫の不妊去勢手術がインフラ整備と並ぶほど一般的なものにすべきです。この考えに賛同し実行しているのは、ボランティア活動者や一部の理解ある市民にとどまっていると、日頃の活動から感じます。今後はそうした枠を超え、子供から大人まで、これまで興味のなかった方々やさらには生体販売等に関わる人々にまでも、積極的に訴えかけていく必要があると考えています。

そこで、今年度からはさらに講演・啓発活動に力を入れていきたいと思います。

これまでの講演実績

(演者: 大門獣医師・野村獣医師・橋本獣医師・平野獣医師)

- ・早期不妊去勢手術のすすめ(2022.9 まちねこ東大阪様主催カンファレンス(大阪))
- ・早期不妊去勢手術のすすめ(獣医師対象)(2022.11 やさか動物病院デモオペ時院内セミナー(岡山))
- ・The New Normal: Feline Spay/Neuter by Five months of age (WVS研修 (タイ))
- ・防災目線からのペットの不妊去勢手術の重要性(2023.8 人とペットの防災シンポジウム(埼玉))
- ・スパイククリニックとは(2024.6 にゃんがたセンタークリニック設立時技術研修会(新潟))
- ・防災目線からの不妊去勢手術の重要性(2024.6 にゃんがたセンタークリニック設立時技術研修会(新潟))
- ・456調査結果報告 (2024.12 Spay Vets Japan主催カンファレンス(大阪公立大学))
- ・防災目線からの不妊去勢手術の重要性(2025.1 岐阜大学)
- ・新玉自治会地域猫活動に向けて(2025.2 (神奈川県))
- ・防災目線からの不妊去勢手術の重要性 (2025.3 犬猫ヒューマンライフ様主催講演会(和歌山))
- ・不妊去勢手術の実際(2025.4 猫から目線様主催勉強会(オンライン))



講演依頼を受け付けています！

講演を希望される方は、まずはemailでお問い合わせください。

info@spayvetsjapan.org



■Conference on Humane Population Control for Companion Animals Japan2025(仮) 開催！

2025年11月30日(日)に第2回目となります、Spay Vets Japan主催日米交流カンファレンスを開催致します！
今回のメインピックスは、先のアメリカ訪問記でも紹介したカリフォルニア州ロサンゼルスのカAMPクリニック事務局長Zoey Knittelをスピーカーとしてお招きし、カリフォルニアの犬猫事情の実態と、CAMPクリニックの取り組みを紹介していただく予定です。

詳細が決まり次第、HPまたはSNSで公開致しますので、是非ご確認ください！

なお、2024年12月1日開催、第一回カンファレンスは現在、録画視聴のお申し込みが可能(2025.12.31まで)です。
詳しくはHPをご覧ください。



Zoey Knittel serves as the Executive Director of the Community Animal Medicine Project (CAMP)

CAMPは南カリフォルニア最大の非営利獣医療団体で、ロサンゼルス全域で必要不可欠な獣医療サービスを提供しています。CAMPは、低コストで大量の避妊・去勢手術と地域動物医療を提供する4つの定常診療所と、ロサンゼルス全域を巡回する2つの移動診療所を運営し、獣医療サービスを必要としている地域社会に直接サービスを提供しています。

さらにCAMPは、獣医トレーニング・プロジェクト(VTP)を運営しています。これはRACE公認のプログラムで、質の高い大量避妊・去勢手術と臨床技術のトレーニングを獣医師に提供しています。

2007年にCAMPがオープンして以来、CAMPの獣医師スタッフは30万件以上の不妊・去勢手術を行い、何百万匹もの子犬や子猫がホームレス状態になるのを防いできました。

CAMPの地域動物医療獣医プログラムにより、年間80,000匹以上の犬猫がケアを受けています。

2025年1月にロサンゼルスで起きた大規模な山火事による被災ペットの医療支援にも尽力されています。

●HPはこちら www.campla.org



■他、行動計画

- ・トレーニングプログラムの新しい挑戦
- ・456調査の論文発表を目指す
- ・AVSシェルターガイドライン不妊去勢手術編の監訳
- ・繁殖予防病院継続
- ・会員獣医師による大規模スぺイデーの実施
- ・内閣府へ公益認定申請、今年度中の認定を目指す

今年度も、
Spay Vets Japanを
よろしくお願い致します！

<会員獣医師募集中！>

活動を共にする獣医師のご入会を随時受け付けております。ご入会で、会員限定情報コンテンツの閲覧、外科トレーニングへの執刀参加、オンライン勉強会への参加などが可能です。他にも、会員獣医師同士が交流できる機会を設けております。ご希望の方は、HPご入会フォームよりご連絡ください。



当会のミッションを果たすため
獣医師が最大限の活動続けるには
皆様からのサポートが必要です。
ご支援・ご協力の程宜しくお願い致します。

沢山の方々より
ご支援賜り
感謝申し上げます。

Donation

口座名称 一般社団法人 Spay Vets Japan

三井住友銀行 八尾支店

店番号 161 普通口座 2327086

ゆうちょ銀行 郵便振替

口座番号 00990-7-284710

コングラント コングラントQRコード



2024年度 支援者様

一般社団法人 Happy Tabby様
Happy Tabby Clinic 様
(有) アメディコ様
COMMUNITY ANIMAL MEDICINE PROJECT様
NPO法人 西日本アニマルアシスト様
一般社団法人 わんむすび様
人とペットの防災クラブ様
(有) 藤井建具製作所様
池田満喜子様
オリーブの木動物病院様
Swingどうぶつ病院様
吉田尚子様
寺町動物病院様
しろねこスパイククリニック様
平賀あゆみ様

小松純一様
小松ひろみ様
丸山敏明様
池本美佐子様
川崎今日子様
竹内章子様
アライサチコ様
ヨシオカミズキ様
小林裕子様
遠藤果美様
田中久貴様
前田秋男様
笹川浩子様
内藤卓子様

賛助会員募集中

個人会員 3,000円 法人会員 10,000円 詳しくはコングラントHPをご参照ください。

